

5. その他の分野：教育・研究分野への女性の参画

(1) 教育・研究分野への女性の参画の実態

シンガポールの教育制度は、小学校 6 年間、中学校 4 年間、高等学校（Junior Colleges/Centralised Institute は 2～3 年間、Polytechnics は 3 年間、Institute of Technical Education は 1～2 年間）、大学 3～4 年間である。高校や大学に進学する男女の割合は、ほぼ同等である。

教職者における女性比率を見ると、62.5%と他の産業分野に比べて高い割合を示している。特に小学校の教員に占める女性の割合は非常に高く、8 割を超えている。シンガポール教育省は、教育を「道徳、知性、身体、社会性、芸術性などすべての子どもの養育」と位置づけており、子どもの養育は女性の仕事として受け入れられている。また、小学校・中学校教員の給与が相対的に低いため、男性が就職したがるという指摘もある。

女性教員の比率は、教育レベルがあがるにつれて減少する。小学校では 8 割強、中学校で 7 割弱、一般の高等学校は 6 割弱であるが、大学では 2 割強と少なくなる。

図表 4-18 教職者における女性比率（2007 年）

教育レベル	女性比率 (%)	女性教職者数 (人)	教職者総数 (人)
小学校	82.6	10,298	12,472
中学校	66.2	7,184	10,850
Mixed Level ^{※1}	65.6	1,459	2,225
高等学校	Pre-University ^{※2}	1,114	1,958
	Institute of Technical Education	487	1,408
	Polytechnics	1,673	4,303
National Institute of Education	49.3	264	536
大学	23.9	855	3,582
計	62.5	23,334	37,334

※1 Mixed level とは、小・中一貫、中・高一貫等の教育を行う学校を指す。

※2 Pre-University とはジュニアカレッジ及び Centralised Institutes を指す。

出典：Singapore Department of Statistics, *Yearbook of Statistics Singapore 2008*

教職者における女性比率の推移を見ると、過去 10 年で大きな変化はなく、女性教員の比率は微増傾向である。

図表 4-19 教職者における女性比率の推移

教育レベル		1998 (%)	2003 (%)	2004 (%)	2005 (%)	2006 (%)	2007 (%)
小学校		78.6	82.8	83.1	83.0	82.8	82.6
中学校		64.0	66.4	66.6	66.7	66.8	66.2
Mixed Level ^{※1}		-	-	-	-	65.9	65.6
高等学校	Pre-University ^{※2}	59.1	57.3	58.6	57.7	58.9	56.9
	Institute of Technical Education	26.8	29.3	31.3	31.6	32.0	34.6
	Polytechnics	33.4	37.5	36.2	36.3	37.4	38.9
National Institute of Education		45.4	42.2	43.9	48.5	48.3	49.3
大学		21.8	22.1	22.1	23.0	22.5	23.9
計		60.3	62.9	63.1	62.8	62.9	62.5

※1 Mixed level とは、小・中一貫、中・高一貫等の教育を行う学校を指す。

※2 Pre-University とはジュニアカレッジ及び Centralised Institutes を指す。

出典：Singapore Department of Statistics, *Yearbook of Statistics Singapore 2008*

小学校から高等学校までの一般教員、副校長、校長における女性比率を見ると、いずれの職位にあっても女性がほぼ過半数を占めていることがわかる。小・中学校教員では職位があがるにつれて女性比率が減少するものの、高等学校教員では逆に増加している。

図表 4-20 教職者における職位別女性比率（2007 年）

教育レベル	女性教職者 (%)	女性副校長 (%)	女性校長 (%)
小学校	82.6	73.0	71.8
中学校	66.2	57.7	53.2
Mixed Level ^{※1}	65.6	55.6	46.2
高校 (Pre-University ^{※2})	56.9	59.1	64.3

※1 Mixed level とは、小・中一貫、中・高一貫等の教育を行う学校を指す。

※2 Pre-University とはジュニアカレッジ及び Centralised Institutes を指す。

出典：Ministry of Education, *Education Statistics Digest 2008*

研究者の女性比率は、科学技術分野に限ったデータであるが、25.4%である。一見すると、政府機関や公立の研究所は女性研究者の比率が高く、民間企業で低くなっているが、抱える研究者数の規模を考慮すると、実態としては所属機関による差はないと思われる。

図表 4-21 科学技術分野の研究者^{※1}の女性比率（2007年）

所属機関	女性研究者 (%)	女性研究者数 (人)	研究者総数 (人)
民間企業	23.7	3,533	14,921
政府機関 ^{※2}	29.8	646	2,165
高等教育機関 ^{※3}	25.8	1,260	4,879
公立研究所 ^{※4}	30.7	780	2,541
計	25.4	6,219	24,506

※1 科学技術研究庁の調査による、R&D(基礎研究・応用研究・試験開発)に携わる大学卒業以上の科学研究者・エンジニア (Research Scientists and Engineers : RSE) の値 (ポスドクは除く)。分野としては自然科学、工学技術、バイオ医学、農業・食品化学が含まれ、社会科学と人文科学は対象外である。定義は出典の 27 頁に記載。

※2 高等教育機関・公立研究所を除く政府機関。

※3 大学ならびにポリテク。

※4 科学技術研究庁の研究所。

出典 : Agency for Science, Technology and Research, *National Survey of R&D in Singapore 2007*に基づき作成

研究者の女性比率の推移を見ると、微増傾向にある。

図表 4-22 科学技術分野の研究者^{※1}の女性比率の推移

年	民間企業 (%)	政府機関 ^{※2} (%)	高等教育機関 ^{※3} (%)	公立研究所 ^{※4} (%)	計 (%)
2003	20.6	30.8	21.6	26.5	22.5
2004	21.5	32.3	23.7	26.7	23.4
2005	22.0	31.8	24.2	29.5	24.1
2006	23.0	30.3	25.1	30.2	24.8
2007	23.7	29.8	25.8	30.7	25.4

※1 科学技術研究庁の調査による、R&D(基礎研究・応用研究・試験開発)に携わる大学卒業以上の科学研究者・エンジニア (Research Scientists and Engineers : RSE) の値 (ポスドクは除く)。分野としては自然科学、工学技術、バイオ医学、農業・食品化学が含まれ、社会科学と人文科学は対象外である。定義は出典の 27 頁に記載。

※2 高等教育機関・公立研究所を除く政府機関。

※3 大学やポリテク。

※4 科学技術研究庁の研究所。

出典 : Agency for Science, Technology and Research, *National Survey of R&D in Singapore* 各年版に基づき作成

(2) 教育・研究分野への女性の参画に関する取組

教育分野は、最も女性の進出が進んでいる分野の 1 つであり、小学校では女性教員が 8 割を超えている。しかし、男性教員を積極的に雇用してジェンダーバランスを取るような取組は行われていないようである。他方、大学教員に占める女性比率は低い現状であるが、女性教員の雇用を促進するような取組は行われていないようである。

雇用機会はすべて個人の能力に基づくとの方針から、研究職を含めた専門職分野への女性参画を支援するような政府プログラム¹⁴⁹は実施されていない。

(3) 今後の課題

シンガポールでは大学教員に占める女性比率が低いが、これはそもそも大学数が少なく、大学教員への雇用機会も少ないことに起因すると考えられる。従来はシンガポール大学と南洋大学の 2 校¹⁵⁰であったが、シンガポール経営大学が 2000 年に新設され、さらに大学が新設される動きもある。今後、大学の増設に伴い、女性教員の雇用機会も増えていく可能性がある。

¹⁴⁹ シンガポール国立大学医学部では、かつて女子学生の入学を制限するクォータ制が導入されていたが、2002 年に撤廃されている（付属資料 3、246 頁参照）。

¹⁵⁰ シンガポールの総合大学は、英語系のシンガポール国立大学 1 校のみである。華語系の私立南洋大学（1956 年設立）は 1980 年シンガポール国立大学に吸収合併され、理工系学部が独立して現在、南洋理工大學となっている。

参考文献

- 岩崎育夫『シンガポール国家の研究』風響社 2005
- 木脇奈智子「シンガポールの子育てと子育て支援」『アジアの家族とジェンダー』（落合恵美子・山根真理・宮坂靖子編）頸草書房 2007
- 田村慶子『シンガポールの国家建設—ナショナリズム、エスニシティ、ジェンダー』明石書店 2000
- 田村慶子「シンガポールにおけるジェンダーの主流化と NGO」『東南アジアの NGO とジェンダー』（田村慶子・織田由紀子編）明石書店 2004
- 田村慶子「東南アジアの国際移住労働とジェンダー」『現代アジア研究第 1 巻—越境』（高原明生・田村慶子・佐藤幸人編）慶応大学出版会 2008
- 田村慶子編『新版シンガポールを知るための 62 章』明石書店 2008
- Ang, S. L. (September, 2006) Gender Differentials in Fields of Study among Graduates. Statistics Singapore Newsletter.
- Association of Women for Action and Research. (2007) *CEDAW Shadow Report for the 39th CEDAW session*. <http://www.aware.org.sg/wp-content/uploads/2008/12/aware-cedaw-shadow-report-may-2007.pdf>
- Lim, Hwee Hua. (March, 2008) Women: engines of Growth. Singapore Government Media Release <http://app.sprinter.gov.sg/data/pr/20080308998.htm>
- Ministry of Community Development. (2000) *Singapore's Initial Report to the UN Committee for the Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination Against Women, Singapore*.
- Ministry of Community Development and Sports. (2001) *Singapore's Second Periodic Report to the UN Committee for the Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination Against Women, Singapore*.
- Ministry of Community Development, Youth and Sports. (2004) *Third periodic report of States parties: Singapore*. United Nations CEDAW/C/SGP/3
- Tambyah, PA. (2005) Selection of Medical Students in Singapore: a historical Perspective. *Ann. Acad. Med. Singapore*, vol. 34 No.6 pp.147C-151C.
- Tan, J. (2007 年 9 月 5 日) Standing strong in the medical arena. *The Straits Times* 記事 2008 年 11 月 20 日取得 <http://www.asiaone.com/Business/Office/Hot%2BJobs/Story/A1Story20070911-25014.html>
- United Nations Development Programme. (2007) *Human Development Report 2007/2008. Fighting climate change: Human solidarity in a divided world*.
- Yu-Foo Yee Shoon. (2006) 東アジア男女共同参画担当大臣会合 2006 におけるスピーチ <http://www.gender.go.jp/eastasia/2006-07-08.pdf>